

令和5年度〔自己評価報告書〕

| | | |
|------|------------|-------|
| 学校番号 | 学校名 | 校長名 |
| 37 | 川崎市立下沼部小学校 | 菅原 隆宏 |

| | |
|--|--|
| 学校教育目標 | 今年度の重点目標 |
| (知) よく考えすすんで学習する子ども(やりぬく力) (徳) 心豊かで思いやりのある子ども(ゆたかな心) (体) 明るく健康な子ども(じょうぶなからだ) | I 新しい社会を創り出す能力や態度の育成(①～⑥項目) II 児童理解と人権尊重を大切にしたい指導・支援(①～④項目) III 継続した課題・緊急な課題への取り組み(①～⑥項目) IV 開かれた学校づくり(①～⑤項目) |

| 評価項目 | 具体的な取組 | 成果(実現状況) | 課題と具体的な改善策 |
|--|---|--|---|
| I 新しい社会を創り出す能力や態度の育成(①～⑥項目) ③ペア学年活動を通して、心豊かな児童を育成する。 ⑤GIGAスクール構想における情報活用能力を育成する。 | ③1年・6年、2年・4年、3年・5年の少人数でのペア学年活動を行う。自己紹介・夏休み作品展メッセージ・落ち掃き等の活動を通して、リーダーシップやフォローシップにおける能動的・自律的な判断や行動を育成する。 ⑤GIGA端末を活用し、既習とつながる・他教科とつながる・他者とつながるをキーワードに授業で活用する。 ☆発達段階に即した、情報収集・整理・比較・発信・伝達したりする力を育成する。 | 【成果】ペア学年活動を通して、児童同士が顔と名前が一致するような少人数班編成で行った。全学年とも中休みのペア学年遊びを実施したり、学習の成果物を互いに紹介したりすることができた。 【成果】GIGA各学年指導計画に従い、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力と位置づけ、教科横断的に育成してきた。GIGA端末等のアプリを各学年段階で適切に活用して、積み重ねてきている。 | 次年度の年間活動計画を作成し、全ての担任が高学年児童と共にペア活動の企画・運営・実行に携わるようにする。1年と6年のペア学年交流は、スタートカリキュラムに位置付け、「やってあげる」から「見守る」など、1年生の自発的な言動を導く。 担任がGIGA各学年年間指導計画を共有することで、その学年の活用スキルの重点を理解し、取り組むことができるよう配慮している。授業に活用できるよう、chromebook活用事例の研修を複数回行い、教師の活用能力を引き上げていく。 |
| II 児童理解と人権尊重を大切にしたい指導・支援(①～④項目) ②児童同士の関係性を把握し、よい人間関係をつくる。 ③児童や保護者とのコミュニケーションを大切に、問題行動の早期発見・解決、必要に応じて継続支援に努める。 | ②かわさき共生*共育プログラムのエクササイズを通して、自分づくり(自尊感情)、友だちづくり(リレーション・かかわり)、仲間づくり(所属集団の発展・改善)を行い、望ましい人間関係の育成を図るよう取り組む。 ③年3回の学校生活アンケートを行い、結果をもとに、児童との面談を積極的に行い、個人の内面の把握や学級で起こっている諸問題の実態に早期に気づくようにする。 支援教育COを中心にチームでの支援体制を行う。 | 【成果】各学年のエクササイズは、今年度よりSOSの出し方を含めて、年間7時間となった。学級風土のよりよい構築のために内容を効果的に実践し、効果測定の結果や生活アンケートを活用し児童理解を深めることができた。 【成果】年3回の学校生活アンケートを行い、学級の諸問題について担任だけで処理したり、抱え込んだりせず、支援教育COや学年主任、管理職等に報告・連絡・相談をするという共通認識をもち早期の対応に努めてきた。 | 教科書改訂により令和6年度より変わる、各学年の指導計画と評価規準を冊子として作成するが、共生*共育プログラムのエクササイズの年間指導計画・指導時期もとじ込み、年間7時間の確実な活用を行い、児童のよりよい人間関係作りを行う。 学校生活アンケートは児童の実態を把握するために有効であり、来年度も回数も3回にする。面談マニュアルを用いた児童との面談をアンケート結果を基に複数回行い、安全安心に学校に来られるよう支援していく。 |
| III 継続した課題・緊急な課題への取り組み(①～⑥項目) ①学年会を効果的に運営し、機能する学年会を行う。 ③現代諸課題(市制100周年・70周年行事)について、活動計画や学習環境を整える。 | ①学年会において、研究授業に向けた単元展開の構想や単元レベルでの資質能力の評価について事例を検討し、3つの資質能力の何に相当するのか、また、どのように見取るのか情報交換を行う。また、次週の計画を話し合い、活動を構想する。 ③100周年「学校e-ね★サミット」の取組として、本校で取り組んできた教育活動を「私達のまち川崎」の視点で見直し、心のよりどころとしてふるさと川崎への愛着をもつ。70周年行事に向け、副読本・スローガン・マスコットなどの構想を行う。 | 【成果】研究授業に向けた単元展開の共有や「問題の見だし」の教材研究や教材づくりを学年の皆が積極的に行った。毎週水曜日と金曜日を短縮時間にして、行事や児童理解についての時間を確保し、計画的な取り組みを行うことができた。 【成果】100周年「学校e-ね★サミット」に向けた学校の取組についてのスライドを作成した。70周年行事について、副読本のプロットを立てたり、スローガンを保護者や地域の方にアンケートを行ったりして決定した。実行委員会を立ち上げた。 | 水曜日・金曜日の短縮時程を来年度も継続する。金曜日は、級外の教員が下校指導を行い、各学年が教材研究や行事・次週についての打ち合わせ等が十分に取れる時間を確保し、児童のためのよりよい教育活動が行えるようにする。 100周年「学校e-ね★サミット」の学校間交流に向けた組織づくりや地域への発信の準備をする。70周年行事では、式典部会・祝賀部会・副読本部会・記念誌部会等組織編成を行い、学校・家庭・地域が一体となって周年行事を行う。 |
| IV 開かれた学校づくり(①～⑤項目) ①授業参観、学校説明会、学校HP等で学校からの情報を発信し、教育活動への理解と参画につなげていく。 ⑤幼保小、小中連携を進める。 | ①授業参観、保護者会、学校説明会、学校報告会、学校・学年だより、学校HP、ミマモルメ等で学校からの情報を発信し、教育活動への理解と参画につなげていく。 ⑤地域の中で継続して取り組む教育活動を意識し、授業参観や研修の交流を通して、幼保小、小中連携を進める。幼保小連携では、スタートカリキュラムの更新や幼保との年間を通じた交流学習を計画し、就学児童の安心につなげる。 | 【成果】コロナ禍よりも多くの授業参観を行った。多くの保護者が参観し、児童の学習活動を見守ることができた。学校HPは、担当者が定期的に更新し、保護者アンケートでも94%の好評価をいただいた。 【成果】生活科・理科では、文部科学省の教育課程実践検証協力校となり、中原区保育子育て支援センターと共に幼保小連携のランドマークになるようカリキュラム改善や実践事例紹介を行ったり、近隣幼保との交流を年間7回行ったりした。 | 令和6年度も保護者に満足いただけるように、定期的なホームページ更新を行う。行事予定は、2か月単位で発信を行い、保護者が予定の見通しが立つようにしていく。ロゴフォームを使用して、行事の参加承諾書やアンケートなどを行う。 令和6年度も生活科の文部科学省の教育課程実践検証協力校となり、教科調査官から指導を受けながら、幼保小連携の課題や継続のための方策を考えていく。小中連携では、玉川中学区の3校で授業提案を輪番で行いながら、連携を深めていく。 |

| | |
|--|---|
| 学校関係者の評価 | 今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて |
| ・行事や授業参観などコロナ禍から平常に戻り、多くの保護者が平日にも関わらず参加していることを見て学校への関心の高いことがうかがえた。 ・高学年児童が児童会の活動をGIGA端末を用いてプレゼンテーションできる姿に感動し、時代の移り変わりを感じた。 ・通学路の安全に関する要望が取り入れられ、通学路の危険な所が改善されてきている。 ・地域の枠を取り払った盆踊りや祭りを学校を使って行っていき、地域の輪を広げていく。 ・学校評価アンケートから、学校目標達成への取り組みがわかり、PTAでも協力できることがないか考えていきたい。 | ・コロナ禍でこれまでの本校の行事等を精査し、行事の運営を考え計画してきた。通常に近い行事や学習形態で行うようにしてきた。コミュニケーション能力の伸長や上学年の責任感の高まりを考え、学校行事やペア学年活動の工夫を考え、さらに充実させる。今年度、感謝の会やSNBフェスのように児童が考えて企画したものを大いに認め主体性が高まるように支援していく。 ・通常級で支援が必要な児童が多く支援教育COを中心とする指導体制を有効に機能させるとともに、スクールカウンセラーとの連携を重視し、支援の方向性を共有していく。 ・令和6年度も「主体的に動き出し、ともに学びをつくりあげる子の育成」をテーマに、子どもの主体的な問題解決の姿と、他者との対話の中で問題解決の質を高める姿を追究し授業力を高めていく。 ・70周年記念事業(市制100周年)として、PTAや地域との連携を図り、1年間の行事を記念行事と捉え、協力し合う。 |